

平成22年度 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール

作文の部 <講評>

本事業『児童・生徒の平和に関する図画・作文コンクール』は、『歴史の事実を次の世代へ正しく継承し、平和を尊ぶ心を育てる』また『作文を書くという創作活動により、平和メッセージを発信する』という趣旨で実施されている。近年、戦争体験者の高齢化が進み、歴史事実の風化が懸念される中、『平和行政推進事業』として企画された意義は大きく、作文の内容にもその趣旨が生かされ、子ども達の平和への思いが伝わる作品が多かった。

その一つは、子ども達が社会科や総合学習で、ガマや戦争遺跡の追体験、また家庭や地域での戦争体験者の体験談を聞くなどの多様な学びをし、その中で貴重な教訓を得ている。子ども達が作文という創作活動を通して戦争や平和を考え、『友達と仲良くする、命を大切にす、平和を願う、不戦の誓いを新たにす』など、『未来に平和を創造する』ことの大切さを学び、平和への思いを綴り、発信していることが心強い。

もう一つは、今学校の教育課題に『基礎的・基本的な知識や技能、そして思考力、判断力、表現力』などの学力向上がある。今回、子ども達が書く活動を通して、自ら思考し、文章の組立てを考え、表現を工夫するなど、教育課題である『思考力、判断力、表現力』の育成に資する貴重な機会となったことである。そして応募総数の増加と創作活動への前向きな姿勢が、平和への関心と意識の高揚に繋がるという期待に応えてくれたことである。

※ 審査については、内容を重視し、表現方法、小・中学校の発達段階も加味しながら、慎重且つ丁寧に審査し、下記の記述のとおり結果を報告としたい。

1、入賞者については、村長賞（2名）教育長賞（2名）優秀賞（5名）入選（12名）計21名が入賞。内訳は、中学生7名、小学生10名。 <応募総数252名>

昨年度より応募数が増えた。総体的に本事業の趣旨が子ども達に理解され、作文に取り組む前向きな姿勢や内容に本趣旨との整合性があり、平和を希求する作品が多かった。

2、村長賞の作文には、語り部がだんだん減っていく中で、平和への誓いを新たにす、その平和を創造していくために、自分達に何が出来るかを真剣に考え、今できることは、平和、友達、命を大切にすることだという小学生。また私達の役割は、次の世代に不戦の誓いを語り継ぐことだという中学生。このような小・中学生らしい決意や姿勢に頼もしさや心強さが感じられた。

3、教育長賞の小中学生の作文に、戦争と平和、そして今の沖縄の置かれた状況や立場に疑問を抱いたり、平和で毎日が幸せでいられることに結びつけたり、未来が平和であるために大切なことは何かを、読み手一人一人に問かけるなど、強い思いが感じられた。入賞作品以外の多くの作文にも個々の子ども達の素直な平和への思いが表現されていた。

4、小・中学生とも沖縄戦を図書館で調べ、実相や情報を把握し、また戦争を書いた本（体験談や物語など）を読み、読書体験を通して、平和の有り難さや命の大切さを知り、その思いを表現し、平和への関心と意識の高まりを感じることもできた。

5、年代やデータ等の記述の誤りが見られ、資料活用の指導と正確な情報に留意されたい。

6、小学校低学年の発達段階を踏まえ、身近なところから『友達と仲良く』などの人権教育の視点での取り組みも考えてみてはどうだろうか。 <低学年の応募増への期待>

7、本事業への応募に学校間の偏りがあり、取組の工夫が求められる。 <偏りの解消>

8、原稿用紙の使い方、句読点の打ち方、誤字・脱字等の点検、文章の校正を丁寧に指導する等、作文指導の基本を大切にしたい。 <作文指導への期待>

<審査員一同>